

横浜市立四季の森小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	校内授業研究会を活用し一人ひとりの児童の学ぼうとする意欲を高め、わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指し実践する。	次年度も基礎基本の定着を意識した授業研究に取り組む。来年度は国語科に焦点を絞り、具体的に「わかる授業」について検討する。	A B C D
2 豊かな 心	小中協力して、人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪をきちんと判断し人権を尊重する心を育てる。	人権週間等を中心に各学級でお互いの良いところ見つけに取り組むなど自尊感情の向上に取り組んできた。各学級で道徳の授業内容の改善に今後取り組んでいく。	A B C D
3 健やかな 体	歯磨きや早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を図り、児童の体力向上と自己の健康管理能力を高める。	給食後の歯磨きの取り組みは全校に定着している。基本的な生活リズム（早寝早起き朝ごはん）の定着に向け引き続き家庭に働きかけていく	A B C D
4 特別支 援教育	一人一人の課題に応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。	特別支援教育についての研修の場を設け児童理解を深めた。	A B C D
5 児童・生 徒指 導	児童指導専任教諭を中心に、教職員全員で共通理解のもと児童指導に当たる。	毎月職員会議の中で情報共有の場を位置づけ、児童理解が深まった。	A B C D
6 地域 と学校 との連 携	学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。	学校説明会等で学校教育目標等の周知を図ったが十分ではなかった。また、HPの更新についても内容を工夫していきたい。今後学校便りも含め、教育活動理解の手立てを工夫していく。	A B C D
人材育成 組織運営	授業力向上のための授業研究会を充実させると共に年間を通して校内研修を充実させ、授業改善や指導力の向上に努めた。	メンターチームによる研修は日常の保護者対応なども含め適宜行っていた。今後も授業力実践力を高める機会としていく。いじめ防止基本方針についての研修を重ねる必要がある	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	上白根中学校との連携を一層充実させ、定期的な授業参観や本校重点研へ中学校教員の参加、共同研究の場を設けるなどの交流を通して授業改善と学力向上・児童理解に努めた。お互いの授業を参観しあひ研究会を持てたことは大きな成果である。		
学校関係者 評価結果	学校での取り組みや経営方針や子どもの姿など、今後とももっと発信してほしい。子どもの明るい挨拶がしっかりできるよう学区でも家庭でも地域でも働きかけていく必要がある。		
評価結果に 対する 学校の見解	次年度も学校経営方針や実際の教育活動を、学校説明会、授業参観、学級懇談会等の機会をとらえて発信していく。引き続き「あいさつ運動」等に取り組む、家庭や地域と連携しながら規範意識の向上に努める。		
学校経営 中期目標 達成状況	学ぶ楽しさを実感しながら基礎的な学力を身につけられるよう授業力の向上を目指してきた。教科を決めずに取り組んだことで視点の広がりはあったが、研究成果が積み重ねられるよう、教科を絞って取り組みを継続する。各学年の不登校傾向のある児童を含め全職員が引き続き児童理解に努める。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	校内重点研究を国語科に焦点を絞り、授業改善と授業力の向上に努める。児童の学ぼうとする意欲を高め、わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指す。	学習についての基本姿勢、授業に臨む態度等教職員が学びつつある。授業改善と授業力の向上にはまだ課題があるが、教職員の取り組みの誠実さを伸ばしていきたい。	A B C D
2 豊かな 心	小中協力して、人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪をきちんと判断し人権を尊重する心を育てる。	区音楽会、体育大会等各学年の取り組みを励まし合う一言カードのやり取りなどが学年間で行われ、日常の励まし合い認め合いの取り組みが増えてきている。	A B C D
3 健やかな 体	歯磨きの取り組みやよい姿勢の習慣化を図り、児童の体力向上と自己の健康管理能力を高める。	給食後の歯磨きの取り組みは全校に定着している。基本的な生活リズム（早寝早起き朝ごはん）の定着に向け引き続き家庭に働きかけていく	A B C D
4 特別支 援教育	一人一人の課題に応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。	コーディネーターを中心に支援が必要な学級への働きかけについて随時話し合い、支援体制をつくっている。各学級の実態把握、人の割り振り等改善の余地はあるが、システムが動き出していることは成果である	A B C D
5 児童・生 徒指 導	児童支援専任教諭を中心に、教職員全員で共通理解のもと児童指導に当たる。	児童支援専任教諭を中心に、サポート体制が取れそれぞれの意思疎通が図れる協力体制が取れた。支援専任、教務主任、副校長を連携の核とした対応が図られている	A B C D
6 地域 と学校 との連 携	学校の取り組みを発信するとともに、課題や協力を仰ぎたいこと等も伝えられるようにする。	PTAと連動して登校時の児童の安全対策として、全家庭参加の登校時の旗振りを試験実施。実践をもとに地域の協力と理解を得られるよう今後も働きかけていく。	A B C D
人材育成 組織運営	キャリアステージに応じた人材育成を図る。初任者を含め教職員が孤立することのない組織づくりに努める	今年は初任者へのサポートが中心に人の配置を行ったが、学級担任として独り立ちできることを目標にみんなが共通理解してかかわれた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	上白根中学校との連携を充実させ、定期的な授業参観や本校重点研へ中学校教員の参加、共同研究の場を設けるなどの交流を通して授業改善と児童理解に努めた。お互いの授業を参観しあひ研究会を持てたことは大きな成果である。今後も学力向上に向けた具体的な手がかりを探していきたい。よりよい連携を深めるため、連核・調整を計画的に行う必要がある。		
学校関係者 評価結果	挨拶をはじめ、子どもに規範意識の向上について教師の積極的な働きかけを期待する声が多い。子どもの明るい挨拶がしっかりできるよう学区でも家庭でも地域でも働きかけていく必要がある。		
評価結果に 対する 学校の見解	引き続き、教育方針、教育目標について年度初めの学校説明会、月々の学校便り等でわかりやすく伝えていく努力を一層続け、開かれた学校づくりに取り組みたい。小規模校同士の1小1中ブロックであることを逆に強みとして連携をすすめることができた。		
学校経営 中期目標 達成状況	「明日もきたい学校」をめざし取り組んでいるが、不登校傾向のある児童の減少には至っていない。誰もが安心して学べる学級集団作りをめざし、きまりや指導の統一を図り、共通して児童の指導に当たる教職員集団の育成に引き続き取り組む		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	校内重点研究では国語科を通し授業改善と授業力の向上に努める。特別支援教育の視点を土台にし、児童の学ぼうとする意欲の向上を図る。わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指す。	国語科重点研究を通し、授業改善と授業力の向上に取り組む意識が向上した。児童の基礎学力の向上には課題が大きい。学ぶ意欲の向上と学習に対する基本姿勢の育成に取り組むことができた。	A B C D
2 豊かな 心	小中協力して人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪をきちんと判断し人権を尊重する心を育てる。区道徳授業公開をよいきっかけに、各学級実践に取り組む	小中協力して人権研修を行った。区道徳授業公開をきっかけに、各学級実践に取り組んだ。友達や自分の良いところ見つけなど日常の励まし合い認め合いに取り組んだ。	A B C D
3 健やかな 体	歯磨きや早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を図り、児童の体力向上と自己の健康管理能力を高め、不登校の解消につなげる	給食後の歯磨きの取り組みは全校に定着。よい姿勢の習慣化に継続して取り組み意識が高まった。長縄やドッジボール大会などの集会を企画し運動に親しむ機会を増やした。	A B C D
4 特別支 援教育	一人一人の課題に応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。	コーディネーターを中心に支援が必要な児童や学級への働きかけ、支援体制をつくった。連絡調整と情報の共有には課題があり、きめ細やかさが必要である	A B C D
5 児童・生 徒指 導	児童支援専任教諭を中心に、教職員全員で共通理解のもと児童指導に当たる。	児童支援専任教諭を中心に、サポート体制が取れそれぞれの意思疎通が図れる協力体制が取れた。支援専任、養護教諭、副校長を連携の核とした対応が図られている	A B C D
6 地域 と学校 との連 携	学校の取り組みを発信するとともに、課題や協力を仰ぎたいこと等も伝えられるようにする。特に児童の安全対策について発信、協力を依頼する。学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。	PTAと連動して登校時の児童の安全対策として、全家庭参加の登校時の旗振りを実施。継続中。学校開放等基本に立ち返った運用に向け、広報や地道な働きかけを継続している。	A B C D
教師力の 向上	教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広めることができるよう支援するとともに、研修内容を校内に還元できるように促す	区研究会、市研究会等に積極的に参加し提案する機会が増えてきている。校内への還元についてはまだ少ないので引き続き働きかける。	A B C D
人材育成 組織運営	キャリアステージに応じた人材育成を図る。	経験値の高い学年主任と若手という学年体制をほぼ組むことができた。日常の業務中の学びが成長につながった組み合わせと、連携が薄い組み合わせもあり、今後課題を残す。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	定期的な授業参観や本校重点研へ中学校教員の参加、共同研究の場を設けるなどの交流を通して授業改善と児童理解に努めた。また、小中合同で学力学習状況調査の結果を見合い、データからも実態把握を試みたことは成果の一つである。今後も継続していきたい。		
学校関係者 評価結果	児童、生徒数の減少は小中両校とも学校運営の大きな課題であり、学校の存続が地域の一番の願いである。教育方針、教育目標について年度初めの学校説明会、学校便り等でわかりやすく伝えていく努力が認められつつあり、児童生徒が活発に学校行事に取り組む姿を好意的にとらえている。今後も具体的な授業や指導について、実際に参観し理解していただく機会を積極的に設け発信していく。		
評価結果に 対する 学校の見解	児童の多くは自己有用感が高く学校生活への満足度は高いが、挨拶等を始め地域保護者の評価とは差がある。児童の良さや実態、教育方針、教育目標について具体的に学校説明会や月々の学校便り等で伝えていく努力を一層続けたい。		
学校経営 中期目標 達成状況	誰もが安心して学べる学級集団作りをめざし、きまりや指導の統一を図り共通して児童の指導に当たってきた結果、校内は落ち着きつつある。「明日もきたい学校」をめざし取り組んできたが、不登校傾向のある児童の減少には至っていない。		

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要

※当該年度の達成状況： A … 十分達成    B … 概ね達成    C … 努力必要    D … 改善必要